

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

南伊豆町は、昭和30年の町制施行以来半世紀以上が経過しました。

旧6村が合併し、それまでの村から町への移行に伴い、庁舎建設、新たな行政基盤作りなど、町の基礎作りが進められる中、昭和44年の地方自治法の改正により、全市町村に計画的な行政運営を行うための基本構想の策定が義務付けられたことから、本町でも総合計画を策定し、同計画に基づく行政運営を行ってきました。なお、この時点では「第1次南伊豆町総合開発計画」という名称で計画が策定されています。

○第1次南伊豆町総合開発計画で示された町の将来像 『光と水と緑に輝く南伊豆町』

第1次計画の策定以降、10年間ごとに計画を策定してきており、本年は平成22年度を始期とした「第5次南伊豆町総合計画」の計画期間最終年にあたります。

○第2次南伊豆町総合計画で示された町の将来像 『光と水と緑に輝く南伊豆町』

○第3次南伊豆町総合計画で示された町の将来像

『光と水と緑に輝く南伊豆町 ～伊豆南端にきらめく海遊のまち～』

○第4次南伊豆町総合計画で示された町の将来像

『健康、交流、自然共生のまち

～光と水と緑に輝く南伊豆まち・伊豆南端にきらめく海遊のまち～』

○第5次南伊豆町総合計画で示された町の将来像

『次世代（みらい）につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町

～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり～』

なお、現在策定中の第6次南伊豆町総合計画におきましても、第5次計画の将来像を踏襲し、上記将来像に向かうための取組を進めていく方向で検討が進められています。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《策定経過》

平成30年度

- 総合計画等策定のための住民意識調査（アンケート）実施
 - ▶12歳以上の住民から無作為抽出により2,000人を対象
 - ▶有効回答 1,113人 有効回答率 55.6%
- アンケートの配付回収、結果分析、社会情勢や国・県の動向調査、これまでの取組の評価などもあわせて実施（株式会社 りょうせい に委託）

平成31年度
（令和元年度）

6月26日

- 「南伊豆町総合計画等審議会」、「南伊豆町総合計画等策定ワーキング」設置
- 第1回南伊豆町総合計画等審議会会議開催
町長から、南伊豆町総合計画等審議会へ、基本構想案及び基本計画案策定等に関する検討を依頼（諮問）

9月4日

- 第2回南伊豆町総合計画等審議会会議開催

9月9日

- 南伊豆町総合計画等策定ワーキング開催

10月24日

- 南伊豆町総合計画等策定ワーキング開催

11月6日

- 第3回南伊豆町総合計画等審議会会議開催

12月14日

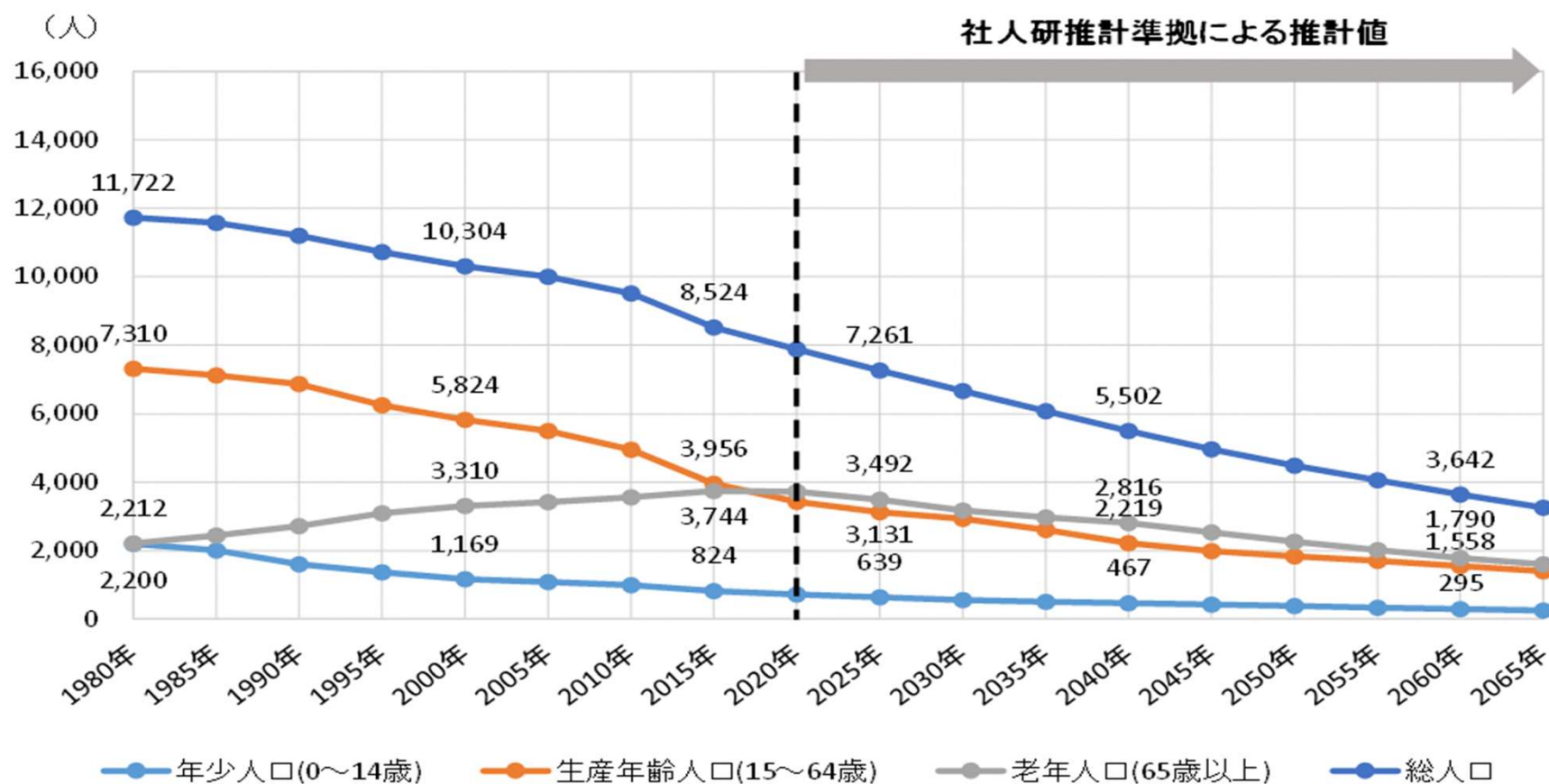
- 第4回南伊豆町総合計画等審議会会議開催（予定）

《南伊豆町総合計画等審議会委員》

会長 黒田 三千弥氏（子ども・子育て会議委員長）、（小塚 健次氏（公募）、福居 通彦氏（公募）、藤原 藍子氏（公募）、橘 真美子（南伊豆応援隊）、奥村 豊氏（区長連絡協議会長）、臼井 善吾氏（社会福祉協議会長）、大野 浩典氏（商工会長）、木下 直美氏（観光協会会長）、大川 哲二氏（伊豆太陽農協）、佐野 穰氏（伊豆漁協）、柴 浩行氏（静岡県）、橋本 元治（副町長）、岡田 浩明氏（南伊豆分校副校長）、山田 浩（東小学校長）、渡辺 篤之（南伊豆中学校長）、水野 好規氏（静岡銀行下田支店長）、阿部 浩一氏（静岡中央銀行下田支店長）、笹本 美和氏（三島信用金庫南伊豆支店長）、石井 暁彦氏（勤労者協議会）、渡辺 良平氏（小林テレビ）、大年 清一氏（高齢者保健福祉計画推進委員会委員長）、大原 一興氏（生涯活躍のまち推進委員会調）、内藤 昭彦氏（南伊豆東海バス）、津久井 元氏（下田メディカルセンター）、外岡 琉珂君・外岡 愛花さん・宇田 舞香さん（南伊豆中学校3年生）、小澤 旭永君・白井 裕大君（南伊豆東中学校3年生）（このほかアドバイザー7名）

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

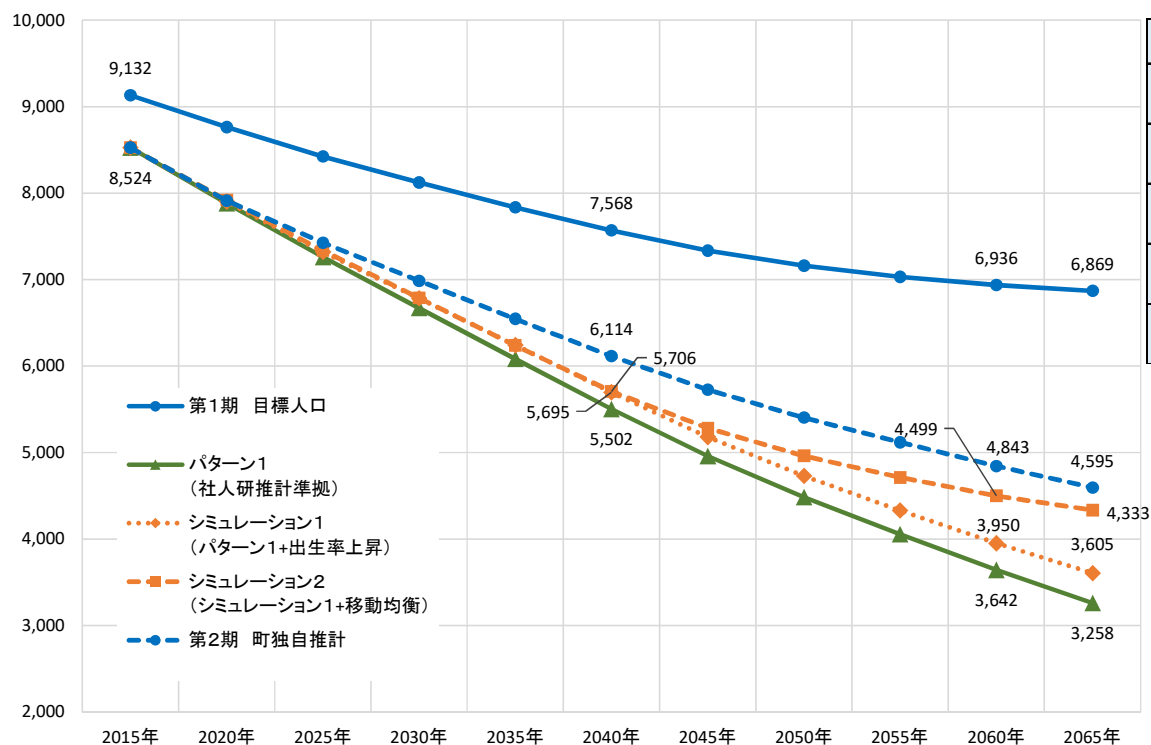
《南伊豆町の将来推計人口について》



現在の町の人口は8,203人（令和元年（2019年）11月1日現在）です。
国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という。）によると、2020年以降も人口減少は続き、2040年には5,502人（2015年現在から約35%減少）、2060年には、3,642人（2015年現在から約57%減少）になると推計されています。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《南伊豆町の将来目標（想定）人口について》



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年
第1期 目標人口	9,132	8,763	8,422	8,121	7,836
パターン1 (社人研推計準拠)	8,524	7,881	7,261	6,669	6,081
シミュレーション1 (パターン1+出生率上昇)	8,524	7,901	7,319	6,781	6,241
シミュレーション2 (シミュレーション1+移動均衡)	8,524	7,918	7,337	6,786	6,236
第2期 町独自推計	8,524	7,912	7,427	6,984	6,545

2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
7,568	7,336	7,158	7,031	6,936	6,869
5,502	4,960	4,486	4,056	3,642	3,258
5,695	5,179	4,729	4,330	3,950	3,605
5,706	5,282	4,961	4,711	4,499	4,333
6,114	5,726	5,404	5,117	4,843	4,595

第1期人口ビジョン（H27策定）での目標人口	合計特殊出生率が2030年に人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の2.07）まで上昇し、かつ毎年36人追加で転入した場合の推計。
パターン1（社人研推計準拠）	社人研の平成29年推計に基づいた推計。
シミュレーション1（パターン1+出生率上昇）	パターン1に加え、合計特殊出生率が2030年に2.10まで上昇した場合の推計。
シミュレーション2（シミュレーション1+移動均衡）	シミュレーション1に加え、人口移動が均衡した（転入転出が±0となった）場合の推計。
第2期人口ビジョンに向けた町独自推計	合計特殊出生率が2060年に1.80まで上昇し、かつ5年間で100人追加で転入した場合の推計。

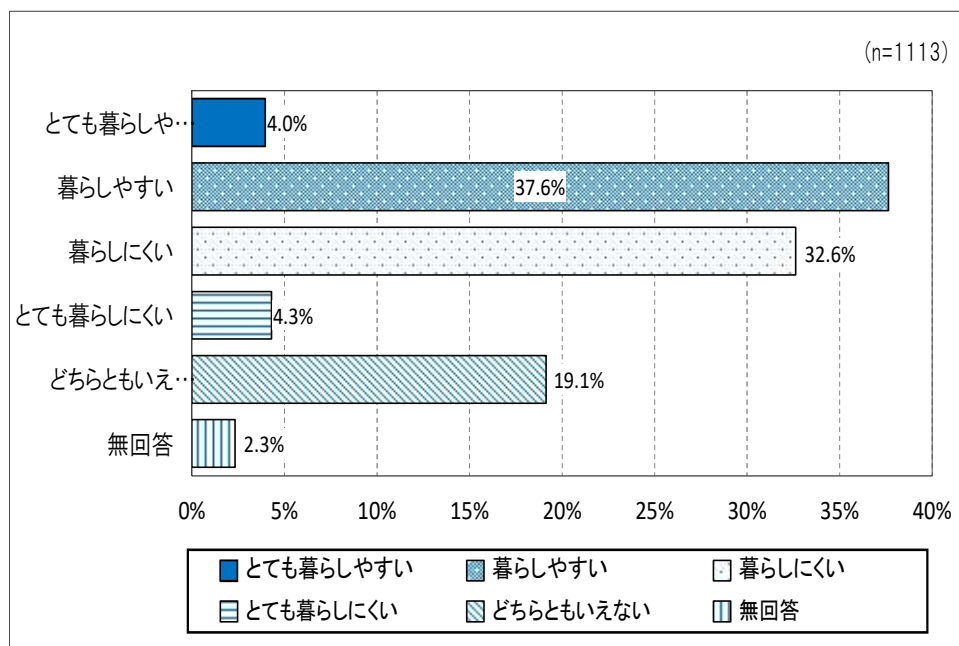
※ 南伊豆町総合計画等審議会での審議過程では、将来目標人口を10,000人程度と設定すべきとの御意見もあります。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

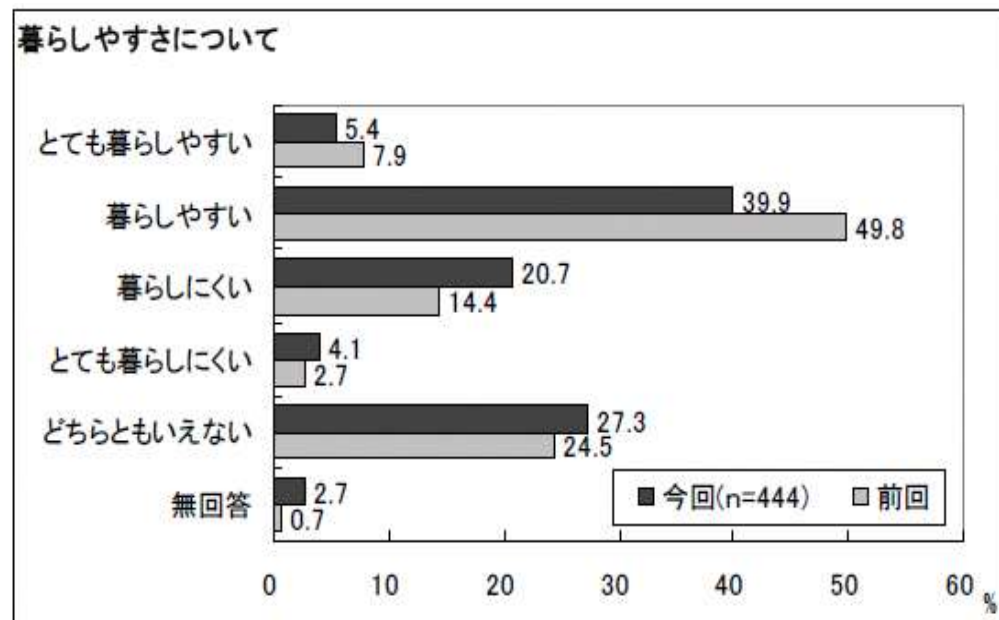
《住民意識調査（アンケート）結果から》

○ 暮らしやすさについて

今 回



前回（H21）、前々回

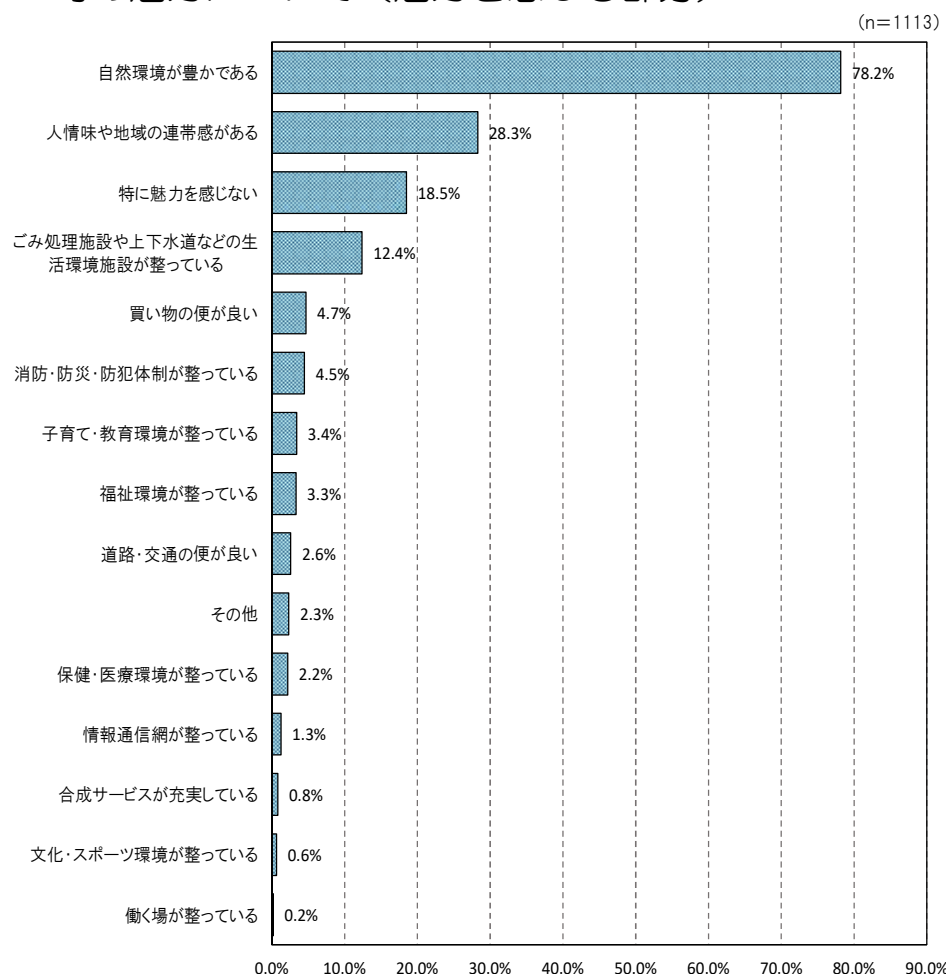


「とても暮らしやすい」は4%、「暮らしやすい」は37,6%と、いずれも調査実施ごとに減少してきています。逆に、暮らしにくいと感じる人は調査実施ごとに増えており、特に「暮らしにくい」は、前回20.7%から今回32.6%に大幅に増加しています。

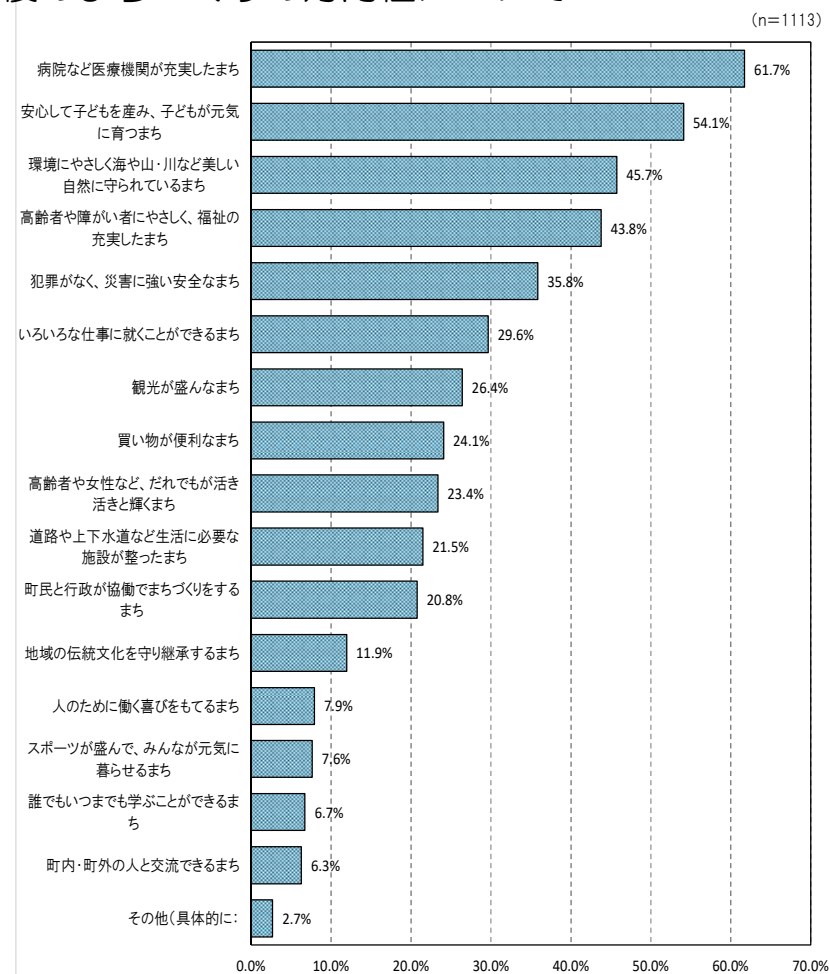
1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《住民意識調査（アンケート）結果から》

○町の魅力について（魅力を感じる部分）



○今後のまちづくりの方向性について



「南伊豆町の魅力は「自然環境」、「人や地域のつながり」、目指す町は「医療機関の充実」、「子育て環境の充実」（目指すまちづくりの方向性においては、子育て環境の充実が前回の調査から大きく伸びています。）

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《住民意識調査（アンケート）結果から》

○満足度の高い政策（取組）と満足度の低い政策（取組）

今 回	満 足 度 高 い	満 足 度 低 い
第1位	水の安定供給 49.6%	公共交通の充実（バス運行など） 50.2%
第2位	健康づくりの推進（健康診査、健康相談など） 42.2%	地域医療の充実（休日医療など） 50.0%
第3位	消防・救急体制の充実 31.7%	商業の振興（商店街の魅力向上、経営改善など） 49.7%
第4位	ごみの減量化・資源化（収集・処理、再利用など） 31.6%	勤労者の働く環境づくり（勤労者福祉、就業支援など） 44.8%
第5位	下水道の整備 30.8%	災害に強いまちづくり（風水害、地震、土砂災害、津波、火災など） 37.1%
第6位	自然環境（大気・水環境、動物・植物など）の保全 29.7%	町独自ブランドの創出（特産品など） 36.6%
第7位	町にある観光資源の魅力 28.3%	機能的な道路体系（国道、県道、町道など）の充実 36.5%
第8位	高齢者福祉の充実（介護サービス、地域ケア体制など） 27.9%	観光振興（観光資源の活用、PRなど） 36.4%
第9位	地域安全のまちづくり（防犯、パトロール、交通安全など） 27.7%	工業の振興（企業誘致など） 34.9%
第10位	情報提供の充実（広報・広聴など） 27.4%	農業振興（担えての育成、生産性の向上など） 32.0%

前 回	満 足 度 高 い	満 足 度 低 い
第1位	水の安定供給	勤労者の働く環境づくり
第2位	健康づくりの推進（健康診査、健康相談など）	地域医療の充実
第3位	下水道の整備	公共交通の充実
第4位	地域安全のまちづくり	商業の振興
第5位	学校教育の充実	工業の振興

公共交通、医療、産業や働く場づくりでは、満足度が低くなっています。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《住民意識調査（アンケート）結果から》

○今後重要と考える政策（取組）

〈今回〉

重 要 度 高 い		
第1位	1-② 地域医療の充実（休日医療など）	81.6%
第2位	5-⑮ 災害に強いまちづくり（風水害、地震、土砂災害、津波、火災など）	78.3%
第3位	5-② 美しい景観（街並み、自然・農地の風景など）づくり	76.8%
第4位	5-⑯ 消防・救急体制の充実	76.7%
第5位	2-② 観光振興（観光資源の活用、PRなど）	76.3%
第6位	1-④ 高齢者福祉の充実（介護サービス、地域ケア体制など）	75.6%
第7位	2-① 町にある観光資源の魅力	75.4%
第8位	1-① 健康づくりの推進（健康診査、健康相談など）	74.6%
第9位	5-⑨ 水の安定供給	74.5%
第10位	5-① 自然環境（大気・水環境、動物・植物など）の保全	74.1%

〈前回〉

重 要 度 高 い	
第1位	地域医療の充実
第2位	高齢者福祉の充実
第3位	勤労者の働く環境づくり
第4位	災害に強いまちづくり
第5位	観光の振興
第5位	消防・救急体制の充実
第5位	効率的な財政運営

医療の充実や災害に強い町づくりの重要度が高くなっていますが、上位10項目については、全般的に70%以上と、重要度が高い結果となっています。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《社会情勢や環境》

南伊豆町を取り巻く社会情勢や環境、現時点において想定できる今後の変化等については、次のように捉えています。

(1) 超高齢・人口減少社会への対応や対策（地方創生の深化）

人口減少と高齢化、少子化が進むことにより、社会保障費の増加や医療・介護サービス等の需要の急激な増大、地域コミュニティの崩壊、社会生活基盤の劣化などが懸念されます。

また東京圏への人口の一極集中により、地方での人口減少の拡大、過疎化の進行、更には集落消滅のおそれなども生じています。

(2) 安全・安心な暮らしの確保（大規模災害等への対応）

東日本大震災の発生以降、大規模地震が相次ぎ発生しており、また今後は、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が懸念されているほか、近年の豪雨災害や台風災害なども想定されます。

(3) 情報技術の急速な発展による超情報化社会（Society 5.0）への対応

情報技術が急速に発展する中、国においてはあらゆる産業や社会生活に情報技術を取り入れ、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることのできる人間中心の社会の実現を目指し取り組んでいます。

(4) 「人生100年時代」、生涯活躍できる社会の実現

「人生100年時代」を迎え、こうした長寿社会において、いつでも学び直し・働き直しができる社会が目指されています。

(5) 地域共生社会の実現

「我が事・丸ごと」の考え方のもと、「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域全体が「我が事」として参画し、「丸ごと」つながることが期待されています。

(6) 住み続けられるまちの実現（SDGs）

国においては、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」とこととし、各地方自治体の積極的な推進が求められています。

(7) 行政課題の多様化・広域化

日常生活や経済活動の広域化に伴い、行政区域を越えた広域で取り組むべき課題が顕在化しています。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《町の主要課題》

意識調査の結果や社会情勢等から、現在の南伊豆町の主要な課題について、次のように捉えています。

1 人口減少、少子高齢化社会への対策や対応

全国的に進行する人口減少傾向を覆すことは容易ではありません。人口減少、少子高齢化のスピードを緩和・抑制すること、また、これらによる悪影響を回避・低減するなど、人口減少に適応しながら、持続可能な地域社会を維持していかなければなりません。

2 産業の持続・活性化と就業機会の拡大

町民が心豊かに充実した生活を送っていくための基盤として、産業の維持・活性化、町民の就業機会の拡大を図ることは大きな課題といえます。

3 災害対策や対応

今後も気候変動の激化による災害の多発化、巨大化といった災害リスクが高まることが想定されていますが、行政だけの対応「公助」には限界が生じています。

4 次代につなぐ美しい景観と豊かな自然の保存と活用

耕作放棄地や管理できない山林の増大、イノシシやシカ等による農林業等への被害が増大しているほか、近年各地で問題となっている大規模な開発事業などへの対応も必要となります。

5 生活の快適性の確保に向けた取組

高齢化の進行にともない、医療や介護、移動手段に対する利便性などへの要望が高くなっています。

6 協働のまちづくりと地域コミュニティの強化

生活に必要な保育や教育、医療、買物、そして災害時の対応などの地域の機能維持に努めつつ、実情に応じて効率的で持続可能なしくみにしていくことが必要となっています。

7 厳しい財政見通し等への対応

自治体としての組織基盤の強化と行財政運営の効率化、周辺自治体との連携などにも取り組む必要があります。

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《基本構想》

【将来像】

次世代につなぐ 光と水と緑に輝く南伊豆町

～ひとにやさしく 自然にやさしく 未来につなぐまちづくり～

【まちづくりの基本理念】

「つながりが生み出す、持続可能な地域の実現」

一、マーガレットのように美しく清らかなまちをつくりましょう。

恵まれた自然の保全と活用を図り、安全で快適に暮らせるまちづくり

一、ウバメガシのようにたくましく長寿のまちをつくりましょう。

共に認めあい、支えあう、温かさで安心があふれるまちづくり

一、灯台の光のように明るく夢のあるまちをつくりましょう。

子どもたちが夢と希望を抱き、健やかに成長できるまちづくり

一、湯けむりのように高く仰ぐ文化のまちをつくりましょう。

歴史と伝統を継承するとともに、学ぶ喜びをもてるまちづくり

一、山の緑のようにうるおいと活力のあるまちをつくりましょう。

地域での活動が、にぎやかで活力に満ちたまちづくり

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について

《基本構想》

【基本目標】

- 1 地域の資源と人が創る魅力ある学びと成長のまちづくり（子育て・教育分野）
地域資源を活用した南伊豆町にしかできない学びの提供、ふるさとへの愛情や誇りの醸成、世界にも羽ばたけるよう土壌となる教育の質の確保、子育て環境の整備とサポート体制の充実、人生100年時代に向け、生涯にわたり活躍するための学びの提供など
- 2 地域包括ケア南伊豆モデルの確立による安心の暮らしづくり（医療・福祉分野）
予防医療と医療連携による健康寿命の高いまちづくりの推進、全ての町民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍することのできる地域づくり、健康に対する住民意欲や知識の向上など
- 3 豊かな資源の魅力を活かした就業の場があるまちづくり（産業振興分野）
資源の活用や魅力化の向上、連携などによる観光を中心とした地域産業の推進を図ることで、将来にわたって維持、継続していくことができ、子どもたちが戻ってくることができるような産業のある地域づくり、担い手不足や情報発信の手法といった共通の課題をサポートする体制づくりなど
- 4 自らが考え、動き、関わる安全・安心なまちづくり（協働、安全・安心分野）
災害に備えた住宅の耐震化や備蓄品の準備、防災教育など「自助」を、子どもも含めた町民全員で進めるとともに、町域の強靱化を図り安全・安心なまちづくりの推進を図ることなど

1 第6次南伊豆町総合計画の策定について
